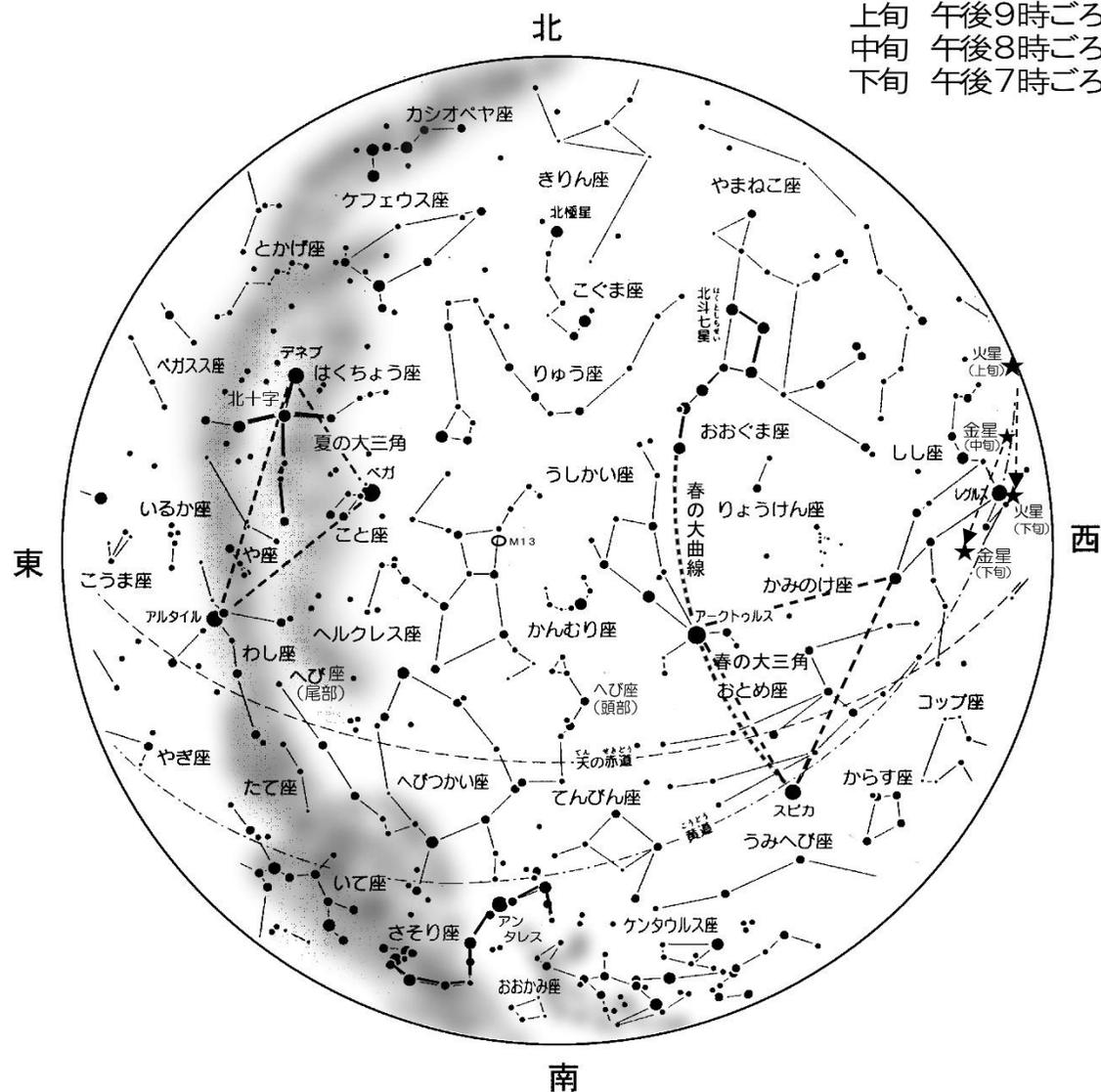


令和3年 7月の星空さんぽ☆ガイド

～ほしを眺めてみませんか～

上旬 午後9時ごろ
中旬 午後8時ごろ
下旬 午後7時ごろ



夏の星座探しは、頭の真上あたりでひととき明るく輝く星から始めましょう。この星はこと座の1等星ベガで、七夕のお話に登場する“織り姫星”です。そして、ベガから南東に目線移すと見つかる星が、わし座の1等星アルタイルで“彦星”です。ベガから北東に目線移すと、はくちょう座の1等星デネブが見つかります。デネブから十字の形に星を結んでできる星の並びは『北十字』とよばれ、古くから空を飛ぶ鳥の姿に例えられてきました。七夕のお話では天の川に橋を架けるカササギの姿だとされています。デネブ、ベガ、アルタイルを結び『夏の大三角』ができ、夏の星座探しのよい案内役となります。南の空低いところに目線移すと赤っぽく輝く星が見つかります。この星は、さそり座の1等星アンタレスです。さそり座は、アンタレスを含む「アルファベットのSの字」のような星の並びが目印です。そして、さそり座のあたりから立ちのぼる白い雲のように見えるものが天の川です。近年では人工の明かりが増え、天の川が見られる場所は少なくなりました。街明かりのない場所に行った時には、ぜひ天の川の観察にも挑戦してみてください。

<見ごろの惑星> (☆マークは、今月のおすすめです。)

- ☆水星 (-0.8 等前後) : おうし座→かに座付近 日の出前、東の低空で輝く。(上旬～中旬)
- ☆金星 (-3.9 等前後) : かに座→しし座付近 日の入り後、西の低空でひととき明るく輝く。
- ☆火星 (1.8 等前後) : かに座→しし座付近 日の入り後、西の低空でひととき明るく輝く。
- ☆木星 (-2.7 等前後) : みずがめ座付近 夜明け前、南南西の空で明るく輝く。
- ☆土星 (0.3 等前後) : やぎ座付近 夜明け前、南南西の空で輝く。

注目の天文現象 ～金星と火星の接近を楽しもう～

今月、日の入り後の西の空では金星と火星が輝いています。これら 2 つの惑星は日に日に接近していくように見え、13日の夕方に最も接近して見えます。この時2つの天体の間の見かけの距離は、腕をまっすぐに伸ばした先に5円玉をかざすと、5円玉の穴に収まってしまうほどです。金星は-3.9 等とひととき明るく輝いており観察しやすいのですが、火星は 1.8 等とあまり明るくはありませんので、肉眼では少し見えづらいかもしれません。お持ちの方は双眼鏡や低倍率の望遠鏡を使うとより良いでしょう。双眼鏡を使うと、5日ごろから21日ごろまでは同一視野に見ることができるので、並び方が変化していく様子をよりはっきりと楽しむことができます。日の入り1時間後には金星と火星の高度が10度を切ってしまうので、西の方向がひらけた場所で観察するようにしましょう。

寄り添うように日々位置を変えていく2つの惑星の輝きを楽しんではいかがでしょうか。

日	曜	天文現象	日	曜	天文現象
2	金	☾ 下弦 (06:11)	17	土	☽ 上弦 (19:11)
5	月	水星が西方最大離角 (04:45)	24	土	☉ 満月 (11:37)
10	土	● 新月 (10:17)	31	土	☾ 下弦 (22:16)